

術三則

泉鏡花

青空文庫

ていわうせいき
 帝王世紀にありといふ。日の怪しきを射て世に聞えたる羿、
 嘗て呉賀と北に遊べることにあり。呉賀雀を指して羿に對つて射よ
 といふ。羿悠然として問うていふ、生之乎。殺之乎。
 乎。賀の曰く、其の左の目を射よ。羿すなはち弓を引いて射て、
 誤つて右の目にあつ。首を抑へて愧ぢて終身不忘。術や、
 其の愧ぢたるに在り。
 また陽州の役に、顔息といへる名譽の射手、敵を射て其
 の眉に中つ。退いて曰く、我無勇。吾れの其の目を志して狙へ
 るものを、と此の事左傳に見ゆとぞ。術や、其の無勇に在り。
 飛衛は昔の善く射るものなり。同じ時紀昌といふもの、飛衛

に請うて射を學ばんとす。教て曰く、爾先瞬きせざることを學んで然る後に可言射。

紀昌こゝに於て、家に歸りて、其の妻が機織る下に仰けに臥して、眼を睜いて蝗の如き梭を承く。二年の後、雖末皆に達すと雖も瞬かざるに至る。往いて以て飛衛に告ぐ、願くは射を學ぶを得ん。

飛衛肯ずして曰く、未也。亞で視ることを學ぶべし。小を視て大に、微を視て著しくんば更に來れど。昌、絲を以て虱を牖に懸け、南面して之を臨む。旬日にして漸く大也。三年の後は大さ如車輪焉。

かくて餘物を覩るや。皆丘山もたゞならず、乃ち自ら射る。

射るいにしたが従うて、ひと盡くむしむ蟲の心なもとを貫く。もつ以てひゑい飛衛につに告ぐ。せんせい先生、
かうたふ高踏してして手てを取とつて曰いはく、なんぢ汝得これ之をえたり矣。これをえ得之之をえたるは、し知ら
はた機もとの下ねに寝ひて梭との飛みぶを視さいて細くん君えんの艶みを見みざるによるか、
ひか非乎。

明治三十九年二月

青空文庫情報

底本：「鏡花全集 卷二十七」岩波書店

1942（昭和17）年10月20日第1刷発行

1988（昭和63）年11月2日第3刷発行

※題名の下にあった年代の注を、最後に移しました。

入力：門田裕志

校正：土屋隆

2007年4月9日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

術三則

泉鏡花

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>